

意見陳述書

2019年4月19日

佐賀地方裁判所民事部 御中

原告 中山 忠 治

1 はじめに

私は玄海原発から海を隔て、北側25キロの位置にある壱岐島の住人で、中山忠治と申します。

10年前に定年退職しましたが、現職中は外国航路船のエンジニアとして世界中をまわってきました。

今は、観光と環境をテーマに壱岐の島の活性化を目指して結成した「壱岐島おこし応援隊“チーム防人”」というボランティア団体と、「玄海原発再稼働に反対する市民の会」の代表として活動しております。また、災害支援活動等を行う自主防災組織、壱岐市防災士会の役員でもあります。

2 原発事故は人災事故である

福島第一原発事故は、私共、旅客の生命と財産を預かる船舶機関士の常識からして全く考えられない人災事故としか思えません。

自然の海を相手に運航している船舶では、あらゆるトラブルを想定して二重、三重の対応策を講じて訓練します。現職のころ、毎月1回、故意に発電機を止め、その後の復旧対処の訓練をしていました。海の上で電気を失えば、即座に命にかかわります。その為、命を守るための訓練はいつでも真剣なものでした。

船舶がこうですから、放射性物質発生器とも言える複雑で極めて危険な原発は、船舶とは比べ物にならないリスクマネジメントが要求され、

そのリスクに対応する装置や訓練が完璧になされているものと信じていました。

ところが福島第一原発事故では、リスクへの対応がおざなりにされ続けた挙句、大惨事へと至ったのです。津波は言い訳にならないと思います。僅かでも可能性のあることならば、何であれ対処できるようにしなければならぬのです。

地震、津波は確かに防ぎようがない天災ですが、福島第一原発事故は呆れるばかりの人災としか言いようがありません。私は、命を守ることを第一に考えてきたエンジニアとして、福島第一原発事故が腹立たしくてなりません。

3 かたちばかりの避難訓練

玄海原発の目の前25キロに人口2万7000人の壱岐の島があります。

トラブルが発生し放射能が飛散したら風向きによっては30分で全島が被曝します。

現在、災害時の対策として30キロ圏外への避難訓練や屋内退避施設の建設などが行われています。しかし、離島である壱岐から全島民が安全な場所へ避難するには5日以上のかかりかかります。

一昨年、昨年と、長崎県と合同で2回の避難訓練が実施され、防災士会として参加しました。しかし、訓練とは名ばかりで、現実とは全くかけ離れたものでした。例えば、要介護者をバスに乗せて移送する訓練では、要介護者役は僅か2～3人。しかも健常者が役を務めました。要介護者役は、予め決めてある場所に待機し、用意したバスに乗せられて移動しました。また、避難所内で放射能の線量測定をする訓練では、防護服を着たまま建物内に入るため、実際であれば避難所内に放射性物質

を持ち込むとしか思えない訓練でした。

4 避難できても、私たちは生活できない

例え、島外に全員避難したとして何処へ向かうのですか。いつ帰れるのですか。被曝した島には誰も帰還出来ません。

昨年3月と11月に東京電力福島原発の事故現場を訪れました。その時の双葉町の国道の線量は $2.222 \mu\text{Sv/h}$ で壱岐の50倍もの線量の中、8年前の津波被害がそのまま放置されていました。このように現在の福島の現実を見ても、その間、何処で生活し、誰が面倒を見てくれるのですか。よしんば帰還出来たとしてもそのような島には観光客など誰一人来ません。

観光も漁業も農業も壊滅的な被害を被ります。それだけでも島民の生活は成り立たなくなります。

5 避難などしなくてよい対策、玄海原発稼働停止が求められている

昨年玄海原発再稼働前に、壱岐市で、九電や原発関係省庁の説明会がありました。国の担当者は「絶対的な安全性はない、幾らかのリスクはある、そのために色々な対策を講じている、避難の為に費用も用意している」と説明しました。

質疑応答では多くの島民から「どのように逃げればいいのか」「壱岐に放射性物質が飛んで来たらどうするのか」「本土との送電線の施設は稼働ありきではないのか」など様々な質問が飛びました。しかし、納得できる回答はなく、閉会予定時間を1時間半も超過する事態となりました。

絶対的な安全性がなく、幾らかのリスクがあり、しかも避難もできない。それならば、稼働を停止するほかないと思います。

私たちは、事故が起きた場合の対策や、避難のための費用を求めている訳ではないのです。

壱岐市防災士会の役員は、この説明会の後、会の方針として、玄海原発稼働停止を求める方向に舵を切ることを決めました。

事故が発生してからの対応を試みるのではなく、発生の源を断つのも防災士としての役目と心得たからです。

6 最後に

子や孫に、この掛け替えのない豊かな自然と歴史に溢れた故郷の島を残す、その為には私は残りの人生の全てを掛けて脱原発に向けて戦います。

裁判官、どうか、私ども島民の切なる願いを聞き入れて頂き、玄海原発の稼働を即刻、停止して下さい。

以上